

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

#### 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

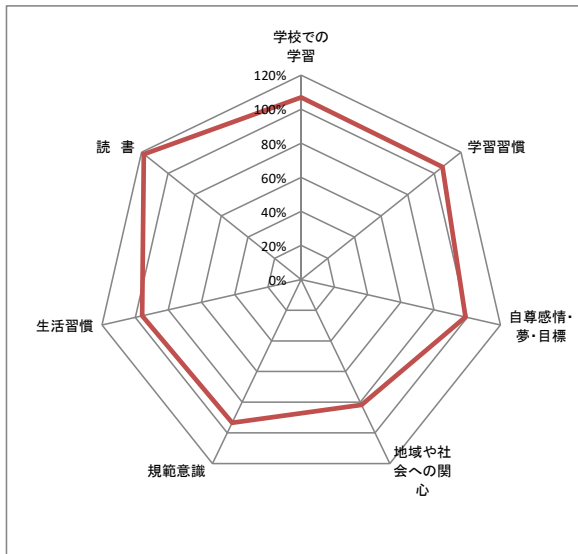
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的によくできており、基礎的な力が身に付いています。「話すこと」「聞くこと」及び「読むこと」の各内容において全国・県平均を上回りました。特に「読むこと」の領域において、目的に応じて文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の正答率が大きく上回っています。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うよう求める問題	
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語との関係を捉える問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域がよくできています。中でも、「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める問題」や「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題」など、思考力・判断力・表現力が問われる問題の正答率が、全国・県平均を大きく上回っています。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題、示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題	
	努力が必要な問題	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度より、「読書」に関する取組を重点的に行ったことで読書習慣が定着してきています。しかし、新聞を読んでいる児童はごく少数でした。活字を通して社会の出来事に目を向けられるよう指導していきます。</li> <li>・ 「学校での学習」や「学習習慣」は高い水準にあります。また、「自尊感情・夢・目標」が高く、将来の夢や目標に向かって努力しようとする姿が見られます。</li> <li>・ 5年生までの授業で、「話し合い」活動や「発表」する機会を多く経験する中で、自分の考えを伝えたり、話の組み立てを工夫したりしている児童が、全国・県平均より多くいました。</li> <li>・ 外国語の授業及び授業以外においても、英語を使ったり、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合ったりしている児童が、全国・県平均より多くいました。</li> <li>・ 携帯ゲームやスマートフォンを使ったゲームを、平日3時間以上する児童が約5割、2時間以上する児童が7割以上、いました。自分で計画を立てて学習する習慣への影響が考えられます。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

国語科では、「資料を用いた目的を理解する」ことに課題が見られます。本文と資料の関係性について考えたり、資料を活用する理由についてまとめたりできるよう指導していきます。

算数科では、「二つのコースの道のりの差」、「時刻」、「図形の面積」など、「測定」の領域で課題が見られます。学習プリントやICT機器の活用の工夫をしながら課題に取り組めるようにしていきます。

全学年を通して、一貫した学びが実現できるように授業スタイルや学習習慣の基準(大蔵小スタンダード)の確立を目指します。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

コロナ禍において、学校行事だけでなく地域行事までもが中止となり、校外学習もできない中、地域・社会との関わりが薄れてきています。今後、感染状況や社会状況を注視しながら、地域・社会とつながる場面をつくっていきます。

「1日当たりの家庭での学習時間」が全国平均よりも短い傾向が見られました。また、家庭でのゲームの時間が増えています。元気に屋外で遊ぶことや読書活動の啓発を行っていきます。引き続き、ご家庭でもお声掛けをお願いします。